



民族楽器にわくわく
 音楽の世界が広がった

6月12日、18日に中日新聞で紹介されました。

世界楽器児童感懐

知恵に驚き、想いに感動 ～移動楽器博物館～

「わくわく楽器ランド」と銘打って行なっている移動楽器博物館は、楽器博物館の職員が浜松市内の小学校に出向き、楽器を切り口にして、世界各地の生活や、人々が楽器に込めた想いや工夫などを、児童に紹介する企画です。会場となる空き教室や音楽室には、世界の人々が自分達の楽器を奏でている可愛らしい絵が描かれた幕が張られます。そして、クラスごとに児童に来てもらい、デフォルメされた絵を見て感想や疑問を発表してもらうところからプログラムは始まります。感性豊かな子ども達からはさまざまな感想や疑問がとびだします。

小学校は1年生から6年生までと学年の幅が広いので、お話の時間は各学年に合わせた内容で行なっています。人気が高い楽器は、2年生の国語の教材として使われている物語「スーホの白い馬」に登場する馬頭琴です。遊牧民の少年スーホが大切に育てていた白い馬が殺されてしまう悲劇のなか、馬頭琴が創られたという物語は、子供の心に残っているようで大変熱心に話を聞いてくれます。馬頭琴は、その名のとおり馬の頭が彫刻された弦楽器ですが、なぜモンゴルではこのような楽器を使っているのでしょうか。

スーホの白い馬では遊牧民の生活について語られていないので、まずゲルという円形のテントに生活し、土地から土地へ移動する彼らの生活を紹介します。もちろん、彼らの生活する場所には、電車も走っていなければバス

もありません。では、どうやって移動するのかというと、馬でなのです。また、馬のお乳を醗酵させて作る馬乳酒は遊牧民にとって大切な飲み物です。馬は彼らの遊牧民の生活に欠かすことの出来ない、大切な生き物なのです。ですから、馬頭琴は広くモンゴル各地で演奏されるのです。楽器に込められた想いは、そういった生活から見えてくるものです。

西アフリカで使われている「お話太鼓(トーキングドラム)」は、その名のとおり太鼓でお話をする事ができます。どのように行なうのでしょうか。その秘密は、両面に張られている皮を結ぶ紐にあります。お話太鼓をわきに構えてバチでたたく時に、紐を押して皮を引っ張り鼓面の張力を変えて音の高低を変えます。更にリズムを組み合わせると、まるで太鼓がしゃべっているかのように聞こえるのです。また、太鼓は声では届かない遠くに音を伝えることができます。

このように、楽器に込められた想いや工夫を紹介した時の児童の目は、学年を問わずきらきらと輝いています。それは驚きでしょうか、感動でしょうか。お話の後に行なう楽器体験や音源装置の音楽を聴いて楽しそうに活動しているようすや、移動楽器博物館が終わってから実際に楽器博物館に来たり、手紙をくれる児童がいますが、きっと何か伝わっているのだと思います。

演奏から文化を知る ～レクチャーコンサート～

知性と感性～ストローの笛



ストロー笛を考案し演奏されている神谷徹さんをお招きし、童謡など親しみのある曲の演奏とストロー笛の紹介を行いました。ス

トロー笛は、様々な太さ、長さ、色の組み合わせでいくらかでもデザインを変えることができます。しかし、指で押さえられる穴の位置や数には制約があります。そこで神谷さんは、演奏する曲を決めてその曲に合った仕掛けのストロー笛を作ることを思いつきました。例えば「チューリップ」の曲ならばチューリップの形をしたストロー笛を作るようになったそうです。また、ストロー笛には驚くべき仕掛けがたくさん隠されています。「しゃぼん玉」を演奏する楽器を演奏すると、実際にしゃぼん玉が飛ぶようにできているのです。他にも、頭上を飛び回る蜂、上って行くこいのぼり、火を吐くゴジラなど、演奏とともに動く思いもよらない仕掛けの数々に、大人はびっくり、子供は大喜び。まさに知性と感性の結晶です。

神谷さんの笑いを誘う絶妙なお話と演奏で、身近な素材ストローが世界でひとつだけの魅力あふれる楽器になることを楽しく学べたコンサートでした。

第 83 回レクチャーコンサート「知性と感性～ストローの笛」

日時：平成 21 年 4 月 18 日(土) 14:00～16:00

会場：アクトシティ音楽工房ホール

出演：神谷徹(ストロー笛 お話) 入場者：171 人

天と地と空と～雅楽三管・笙、箏、龍笛の宇宙

笙、箏、龍笛は、日本の雅楽で使われる伝統的な管楽器です。雅楽では、楽器を習う際、はじめは楽器は弾かせてもらえず、唱歌という旋律を歌にしたものをまず覚え、それがきちんと歌えるようになってはじめて楽器に触れるのだそうです。今回の演奏会では箏の「越殿楽」や朗詠「嘉辰」の唱歌を、お客さんも一緒になって覚え、歌いました。歌詞の書かれた楽譜が配られましたが、西洋の五線譜とは違って音譜はなく、記号だらけの縦書きの楽譜にお客さんも驚いていました。「越殿楽」や「嘉辰」など歴史的な曲の他にも、「草庵の諧」「時の佇まいⅡ」など、近年作られた雅楽器の曲も演奏され、様々な音の響きを楽しみました。



第 84 回レクチャーコンサート

「天と地と空と～雅楽三管・笙・箏・龍笛の宇宙」

日時：平成 21 年 5 月 9 日(土)13:30～15:30

会場：アクトシティ音楽工房ホール 入場者：145 人

出演：中村華子(笙)、中村仁美(箏)、八木千暁(龍笛)

麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に



生誕 200 年を記念してメンデルスゾーンを特集したコンサートを開催しました。メンデルスゾーンの研究で国際的に名高い星野宏美さんによるプレトークでは、恵まれた環境にありながら大きなプレッシャーと葛藤を背負っていたという話に彼の新しい一面を発見し熱心にメモをとるお客様の姿もありました。ピアノ独奏「厳格なる変奏曲」、「チェロソナタ第 2 番」、「歌の翼に」などの声楽曲、そして最後にはピアノトリオと飽きることのないメンデルスゾーンの美しい調べが、会場に響きわたりました。

第 85 回レクチャーコンサート「麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に」

日時：平成 21 年 5 月 12 日(火)18:45～20:45(プレトーク 18:00)

会場：アクトシティ音楽工房ホール 入場者：119 人

出演：小倉貴久子(フォルテピアノ)、桐山建志(ヴァイオリン)、花崎薫(チェロ)、畑儀文(テノール)、星野宏美(お話)

郷愁のアイランド～イリアン・パイプの世界

バグパイプの一種イリアンパイプは、ふいごを使って管に空気を送り音を出します。楽器について学ぶのに 7 年、曲について学ぶのに 7 年、更に演奏経験が 7 年の必要だと言われるほど演奏が難しく、最も複雑なバグパイプと言われています。マイキーさんは、時々アイリッシュ・ジョークを交えながら、7 つの音を同時に出すことのできる複雑なイリアン・パイプを分かりやすく説明してくださいました。「滅多に見られないからお近くでどうぞ」という声かけもあり、席をたって近くで見学するお客さんもいました。演奏のほかにも、守安功さんによるアイランド音楽と歴史についての興味深い解説では熱心に聞き入る方もいました。途中の休憩も取らずに行なった演奏会でしたが、あっという間に過ぎた 2 時間でした。



第 86 回レクチャーコンサート

「郷愁のアイランド～イリアン・パイプの世界」

日時：平成 21 年 6 月 8 日(月)18:45～20:45

会場：アクトシティ音楽工房ホール 入場者：147 人

出演：マイキー・スミス(イリアン・パイプ)、守安功(アイリッシュフルート・お話)、守安雅子(アイリッシュハーブ)

第1回イヴニングサロン～リコーダーとリュートの優しい調べ



イヴニングサロン「イングリッシュ・エア」
日時：平成21年6月20日(土)18:30～19:30
会場：楽器博物館 展示室 入場者：53人
出演：奥田直美(リコーダー)、佐野健二(リュート)

イヴニングサロンは、閉館後の展示室で行う小規模なサロンコンサートです。本年度は3回行ないます。第1回は「イングリッシュ・エア～リコーダーとリュートによるイギリスの歌」。「エア」は「アリア」を英語読みしたもので、「歌」を意味しています。16～18世紀のイギリスの音楽を、リコーダーとリュートによる演奏で楽しみました。演奏会は、イギリス民謡としてよく知られている「グリーンズリーブス」の演奏から始まります。アンサンブルに続いて、リュートの独奏や、リコーダー独奏でナイチンゲールの鳴き声を模した「イギリスのナイチンゲール」という曲なども演奏されました。最後に、「エール・アングロワ」という曲集から抜粋した曲が再び二人で演奏されました。曲紹介の際には、「この曲集は、タイトルはフランス語、中身はイギリスの曲、出版されたのはオランダ、現在保存されているのはベルギー、作曲者にはチェコ人もいて、編集者はイギリス人と、とても国際色豊かなものです」とのお話で、会場が盛り上がる一幕もありました。

十二段舞楽を取材 小國神社・周智郡森町



小國神社の十二段舞楽は、大宝元年(701年)2月18日に勅旨が奉幣したときに舞ったのが始まりだと伝えられ、今日まで傳承されている貴重な伝統芸能です。十二段舞楽は、後年に付け加えられたとされる番外「花の舞」に始まり、一番から十二番まで舞が奉納されます。執り行なわれる舞は、可愛らしい稚児による舞、勇壮な獅子舞など演目は多岐にわたり、他の地域の舞楽では見られない小國神社独特の様式も見られます。また、小國神社と同町にある天宮神社にも十二段舞楽が行なわれており、両社の関係が深いことも特徴です。

舞楽は、春のすがすがしい陽気の中、多くの見物客でにぎわう中、執り行なわれました。本取材では、十二段舞楽の一部始終を写真と映像で記録しました。

取材日時：平成21年4月19日(日) 10:50～21:00

GWミニコンサート・世界のメロディを楽しみました

浜松祭りで賑わった5月3～5日は、ゴールデンウィーク・ミニコンサートを行いました。3日はキルギスの弦楽器「コムズ」。出演はウメトバエウ・カリマンさんと、石阪由美子さん。ギターのように構えて演奏する竿の長い撥弦楽器ですが、弦をはじく手が舞いを舞うかのように回転したり、演奏しながら楽器を肩にのせたり、楽器のネックを地面につけて演奏したりと、見た目にも楽しい演奏に会場も盛り上がりました。

4日は電子楽器「テルミンとマトリョミン」。出演は竹内正実さんと、アンサンブル・マーブルのみなさん。テルミンはロシア生まれで世界最古の電子楽器。独特の音色と演奏方法がユニークな楽器です。マトリョミンは竹内さんの考案で、ロシアの民芸品マトリョーシカ人形の中にテルミンを組み込んだ、楽しい楽器です。アンサンブル・マーブルのみなさんによる合奏で、マトリョミンの不思議な音色が響きわたりました。

5日は、ノルウェーの民俗ヴァイオリン「ハルダンゲル・フィドル」、演奏は榎原聡子さんです。遠目には普通のヴァイオリンと変わりませんが、弓でこする4本の弦のほかに、音の響かせるための共鳴弦が5本ついていて、演奏中はいつも「ウォーン」という響きが続いているのが特徴です。この日の展示室は、雨のため浜松祭りの凧揚げが中止になったこともあって大賑わいでしたが、ハルダンゲル・フィドル独特の豊かな響きにお客さんから嘆息が漏れていました。



メンデルスゾーン生誕 200 年記念特集CD発売

各界から好評を頂いている、当館オリジナルCDに新たな作品が加わりました。今回は、メンデルスゾーン生誕 200 年記念の特集で、名曲「歌の翼に」、「ピアノ三重奏曲 第 1 番」をはじめ、独奏曲、歌曲をちりばめたアルバムです。メンデルスゾーンの研究者として国際的にも名高い星野宏実さんによる解説も必読。美しく素敵なメンデルスゾーンの音楽をお楽しみください。



コレクションシリーズ 20 「麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に～」

収録曲：「ロンド・カプリッチオーソ」「春の歌」「ヴェネツィアのごンドラの歌」「歌の翼に」
「ヴェネツィアのごンドラの歌」「小姓の歌」「月」「新しい愛」「花束」「17の厳格な変奏曲」
「ピアノ三重奏曲 第1番」
演奏：小倉貴久子（フォルテピアノ） 桐山建志（ヴァイオリン） 花崎薫（チェロ） 畑儀文（テノール）
使用フォルテピアノ：伝コンラート・グラーフ 1819～20？ ウィーン はね上げ式 80鍵 A=422Hz
販売：楽器博物館ショップ（TEL 053-451-0300）または一般CD店アマゾンでもお買い求めできます。

◆これからの催し物

- ミュージアムサロン・ミニコンサート
7/26（日）「ミュージカル・グラス」 出演：伊藤弘恵（当館職員）
8/2（日）「サントゥール」 出演：谷正人
8/9（日）「アルパ」 出演：長島忠之、ミシェル・マーコート（歌）
8/23（日）「ジャワ島の小編成ガムラン」
出演：ガムラン・ワサビ
※詳細は、お問い合わせください。
- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日1時間毎
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモンストレーション
- 企画展
「リードオルガンという文化～日本が洋楽と出逢った時～」
8/1（土）～9/6（日） 企画展示室
「絵画の中の楽器たち」
8/1（土）～11/29（日） 企画展示室
- レクチャーコンサート
「小鼓～その美学と音の巧み」
7/4（土） 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール
出演：幸信吾（小鼓）、長谷川晴彦（謡）
「日本の歌と風琴と～リードオルガンの優しき調べ」
8/29（土） 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール
出演：宮崎滋（オルガン）、竹内直美（ソプラノ）、赤井励（お話）
「御座楽（うざがく）～甦った幻の琉球王府宮廷楽」
9/12（土） 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール
出演：御座楽復元演奏研究会、比嘉悦子（お話）
「天使の調べ～無伴奏リコーダーの饗宴」
9/15（火） 18:45 博物館地下展示室
出演：ヴァルター・ファンハウヴェ、田中せい子、ダニエレ・ブラジエッティ
「世界遺産・琴（きん）の世界～日本と中国の文人音楽」
10/9（金） 18:45 アクトシティ浜松音楽工房ホール
出演：坂田進一
「権太アイヌの五弦琴～魂のトンコリ」
10/25（日） 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール
出演：富田友子、木原仁美
- イブニングサロン
「19世紀 懐かしのプラスの響き」 7/19（日） 18:30
博物館地下展示室 出演：東京ヒストリカルプラス
「今宵はシューベルト」 10/24（土） 18:30
博物館地下展示室 出演：七條恵子（フォルテピアノ）
- 講座「楽器の中の聖と俗」
第45回「鹿児島県加計呂麻島・諸鈍シバヤ」
10/17（土） 14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：西岡信雄（大阪音楽大学名誉教授）
- 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」（全8回）
第6回「アンダルシアに咲いた花」7/11（土）
第7回「オクスタンの明るい世界」9/19（土）

第8回「タランテラは鳴り響く」9/26（土）
各回とも14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授）

◆博物館日誌

- 4/11（土） ミュージアムサロン「ムビラ」14:00、15:30
演奏：ハヤシエリカ ルケン・パンパミレ ムビラジャカナカ
参加者 110 名
- 4/18（土） レクチャーコンサート「知性と感性～ストローの笛」
14:00 音楽工房ホール 演奏：神谷徹 入場者 201 名
- 4/25（土） 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」第1回「民族文化の十字路口・バルカン」14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授） 参加者 43 名
- 5/3（日） ミニコンサート「中央アジア・キルギスの弦楽器「コムズ」」
14:00、15:30 演奏：カリマン&石阪由美子 参加者 202 名
- 5/4（月） ミニコンサート「電子楽器「テルミン」と「マトリョミン」」
14:00、15:30 演奏：竹内正実&アンサンブル・マーブル
参加者 438 名
- 5/5（火） ミニコンサート「ノルウェーの民俗ヴァイオリン「ハルダンゲル・フィドル」」
14:00、15:30 演奏：櫻原聡子 参加者 390 名
- 5/9（土） レクチャーコンサート「天と地と空と～雅楽三管・笙、箏、龍笛の世界」13:30 音楽工房ホール 演奏：中村華子、中村仁美、八木千咲 入場者 145 名
- 5/10（日） 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」第2回「草原を駆けめぐったコサックとは」14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授） 参加者 26 名
- 5/12（火） レクチャーコンサート「麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に」
14:00 音楽工房ホール 演奏：小倉貴久子、桐山建志、花崎薫、畑儀文、星野宏実（お話） 入場者 119 名
- 5/23（土） 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」第3回「ヴァイキングの船人たち」14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授） 参加者 39 名
- 6/8（月） レクチャーコンサート「郷愁のアイランド～イリアン・パイプの世界」14:00 音楽工房ホール 演奏：マイキー・スミス、守安功&雅子 入場者 147 名
- 6/10（水） 移動楽器博物館（浜松市立水窪小学校）
- 6/11（木） 移動楽器博物館（浜松市立大居小学校）
- 6/13（土） 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」第4回「アルプに育まれた文化」
14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授） 参加者 19 名
- 6/15（月）～6/18（木） 移動楽器博物館（浜松市立内野小学校）
- 6/20（土） イブニングサロン「イングリッシュ・エア」
18:30 楽器博物館展示室 出演：奥田直美、佐野健二
参加者 53 名
- 6/21（日） ミュージアムサロン・ミニコンサート 出演：浜松学芸高等学校
芸術科音楽課程生 14:00、15:30 参加者 124 名
- 6/28（日） 講座「ヨーロッパ民族音楽紀行」第5回「謎の人ケルトの水脈」
14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授） 参加者 45 名

利用案内

常設展観覧料：大人400円 高校生200円
中学生以下・障害者・高齢者（70歳以上）は無料
開館時間：9:30～17:00
休館日：毎月第2・4水曜日（祝日のときは翌日）、年末年始、
その他施設点検等のための臨時休館日

浜松市楽器博物館だより

平成 21 年 7 月 1 日発行 No. 56
編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp